

# 授業科目 補聴器・人工内耳

【担当教員名】 吉岡 豊		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 聴覚障害児・者にとって必要な補聴器・人工内耳について理解し、補聴器調整方法を習得する。					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 補聴器の種類と仕組みを理解する。</li> <li>2. 補聴器に関する用語を説明する。</li> <li>3. 補聴器の調整装置の効果を記述できる。</li> <li>4. 聴覚機能検査に結果と補聴器の出力特性を関係づける1。</li> <li>5. 補聴器の出力特性を各種理論により準備する。</li> <li>6. 補聴器装用効果の測定する。</li> <li>7. 訴えに応じて補聴器を調整できる。</li> <li>8. 人工内耳の構造を説明する。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	補聴器の種類と仕組みについて			1	
2	補聴器に関する用語について			2	
3	補聴器の出力を調整する装置について			3	
4	聴覚機能検査結果から補聴器選定へ			4	
5	補聴器の出力特性の算出			5	
6	補聴器装用効果の測定			6	
7	補聴器装用で生じた不快感に対する対応			7	
8	人工内耳について			8	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		聴覚障害 I 基礎編 (改訂版)	山田弘幸、佐場野優一 編	建帛社	2007・2,500円＋税
参考書		改訂第2版 補聴器フィッティングの考え方 言語聴覚士のための聴覚障害学	小寺一興 喜多村 健	診断と治療社 医歯薬出版	2006・3,200円＋税 2002・4,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。成績は原則として定期試験の点数をもって行う。			【履修上の留意点】 時間数の不足が予想されるので適宜補講を行う予定である。		